

ベルフォーラム

Bell Forum

2009
SPRING

No.24

地域と職員と共に栄えるチーム



ブルージュ 愛の湖公園 (ベルギー)

撮影：パートナー 落合 希淑 氏

●医療最前線：**脳神経外科の挑戦**

●連載：登録医のご紹介

●CLOSE UP：患者様満足度調査をおこないました

●TOPICS：第5回耳鼻科セミナーを開催しました

日本医薬品学会認定薬剤師制度による研修施設承認



社会医療法人 生長会

ベルランド総合病院

脳神経外科の挑戦



脳神経外科
おくの しゅうぞう
 部長 奥野 修三

Profile

昭和63年 奈良県立医科大学 医学部卒業
 // 同上 脳神経外科入局
 平成 元年 舞鶴市民病院 脳神経外科
 平成 5年 獨協医科大学 脳神経外科 非常勤講師
 平成 7年 大阪脳神経外科病院
 平成 7年 大阪警察病院脳神経外科
 平成 9年 奈良県立医科大学 脳神経外科 助手
 平成13年 スタンフォード大学脳神経外科 留学
 平成16年 奈良県立医科大学 脳神経外科 助手
 平成17年 ベルランド総合病院 脳神経外科 部長

資格

日本脳神経外科学会：専門医
 日本脳卒中学会：専門医

ベルランド総合病院脳神経外科は、平成17年4月より私を含めた脳神経外科専門医2名による新体制のもと、脳疾患全般に正確で迅速な診断・治療を地域住民のみなさまに提供できるよう心がけております。特に脳卒中、脳腫瘍といった外科治療に重点を置いておりますが、常にすべての情報を提供して十分に話し合った上で治療方針を決定する基本理念を遵守しております。

対象となる疾患

脳腫瘍、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳内出血、脳梗塞（脳血管狭窄または閉塞症）、水頭症、慢性硬膜下血腫などが対象となります。ただ、各疾患の症状は様々かつ複雑であり、紙面の関係からも個々の詳述は困難です。しかしながら、外来にお越しいただいて気になる症状などのお話を伺い、画像診断を行うことにより、ほとんどの疾患は診断がつくと思われれます。

主な診断方法

脳CT【単純および造影】、脳血管造影3D-CT（図1）、脳MRI【単純および造影】（図2）、頭頸部MRA、脳血流シンチグラム（SPECT）、脳血管撮影（3D撮影を含む）などです。各種検査は、症状をもとに単独ないしは造影を組み合わせることで実施します。これらの検査は、通常外来通院で撮影することができます。ただ脳血管撮影については、検査に要する時間は1～2時間程度ですが、検査の性格上2～3日の入院が必要となります。



図1. 頭蓋骨、腫瘍と血管を同時に3D表示（造影3DCT）

主な治療法

・手術以外

内服や点滴にて治療する場合は、外来通院にも対応いたします。病状によっては、入院にて治療する場合がございます。

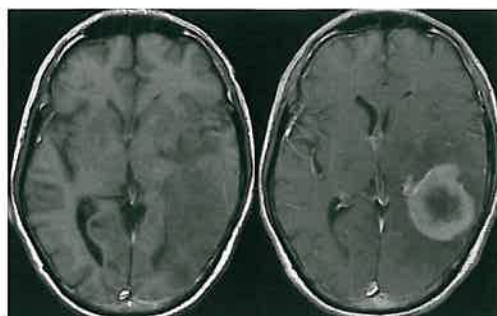
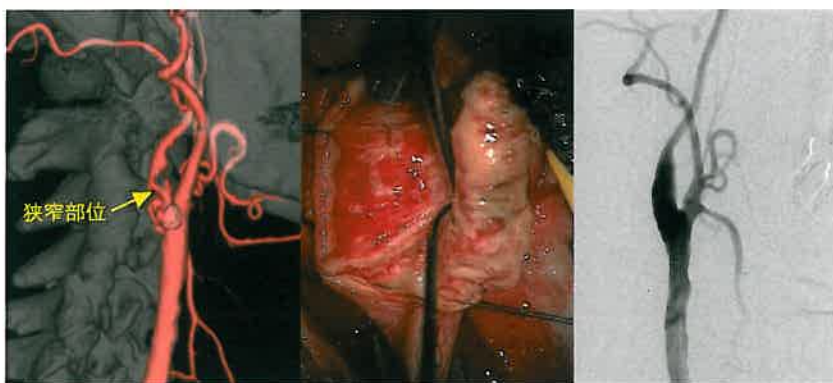


図2. 脳腫瘍MRI (単純+造影)

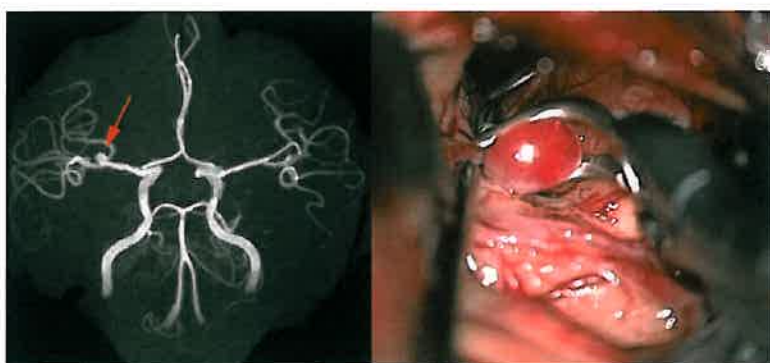
・手術

対象疾患で外科治療が考慮される場合には、入院が必要になります。入院期間などは、各疾患やその程度によりかなりの差異がございますので、その都度ご説明いたします。また、手術はマイクロスコープ（顕微鏡）および各種専用器材を用いて、わたしたち専門医が行います。

なお、脳血管内手術が必要な場合には、関連病院専門医と協力して治療を行っております。



右頸部内頸動脈狭窄症（左：術前造影3DCT、中：術中アテローム切除、右：術後血管撮影）



未破裂右中大脳動脈瘤（左：術前MRA、右：クリッピング術中写真）

患者様へ

1. 脳卒中などの救急脳疾患は、24時間体制で対応しております。
2. また当科では、随時セカンドオピニオンも承っておりますので、適宜外来にて相談ください。
3. 外来受診時は迅速な診断を行うため、ほとんどの患者様に当日CTまたはMRIを行っております。
4. 脳検診も対応しておりますのでご相談ください。

今回は、中区土塔町にて開業していらっしゃいます金崎院長をご紹介します。

診療科目：小児科・アレルギー科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
乳児検診・ワクチン 14:00～15:30	/	○	○	/	○	/
16:30～19:30	○	○	○	/	○	/

*毎月第3木曜日は離乳食相談をおこなっています。



住所：堺市中区土塔町3327

TEL：072-289-3100 FAX：072-289-3101



かなざき みつはる
金崎 光治 先生

Q1. 標榜科は何ですか？

Ans. 小児科・アレルギー科です。

Q2. 医師を目指した動機（きっかけ）は？

Ans. 幼少の頃、かかりつけの小児科医にお世話になることが多く、将来恩返しができればと考えていた頃、ちょうど高校2年生の時に“白い巨塔”をみて決心しました。

Q3. 診察する際に心掛けている事は何ですか？

Ans. ひとりひとりのこどもに、適した診療を心がけています。

Q4. 地域医療について

Ans. 予防医学・地域の流行感染症から慢性疾患・育児栄養相談まで、今、こどもたちが安心して受診できる、地域に特化した医療を目指しております。お役に立てれば幸いです。

Q5. 当院への希望・要望

Ans. いつもご無理申しあげ、恐懼しております。共にこどもたちのために、尽力してください。

Q6. 最後に一言お願いします

Ans. 将来の“宝”であるこどもたちの健康を守ることが私の使命であると考えます。しかしながら、人間一人では及ばないことが多々あります。ご協力をよろしくお願い致します。

医療診療部・管理職研修会

於:コスモスクエア 国際交流センター

社会医療法人生長会では、平成21年2月1日(日)に医療診療部の医師を含む管理職(245名)がコスモスクエア国際交流センターに集合し、医療診療部・管理職研修会を実施いたしました。

この研修会は、法人の運営方針および課題認識の共有を図ることを目的として毎年2月に開催されているもので、今回おふたりの外部講師をお招きして特別講演をしていただきました。



杉本 壽 大阪大学教授

まず、大阪大学大学院医学系研究科救急医学教授で大阪府医師会副会長もされている杉本壽先生に、「大阪府の救急医療の現状と課題」というテーマでお話しいただきました。救急告示病院数が国内で減少(平成12年度293病院→19年度248病院)している中、救急体制を整備していく様々な問題点の解説や課題達成に向けた提案をいただきました。



石井 孝宜 文京学院大学教授

次に、公認会計士・文京学院大学客員教授で厚生労働省に関わる各種委員会の委員を歴任されていらっしゃる石井孝宜先生に、「医療制度はどう変化するー病院機能の再評価とそのてん末」というテーマでお話しいただきました。医療・介護市場の現状と将来や、目前に迫る制度変化の方向性、さらには地域格差が拡がって行く病院経営の課題についてご教示いただきました。

後半は、福原理事長(現会長)から「生長会の3カ年(中期)ビジョン」が示され、法人内の各事業所の3カ年ビジョンおよび平成21年度事業計画を立案・再検証することとなった有意義な研修でした。

今後も、救急医療の体制整備・地域連携の強化など、医療機関の先生方にご信頼いただけるよう病院運営に努めてまいりますので、ご支援・ご指導の程よろしくお願いいたします。



管理部長 松井 俊晴

新規

登録医のご紹介

平成21年4月22日現在 登録医総数 **233件**

地区名		医療機関名	院長名
堺区	一条通	いしだ医院	いしだ ひでゆき 石田 秀之
南区	新檜尾台	多田医院	ただ かずお 多田 和郎
西区	浜寺南町	ますたにクリニック	ますたに せいぞう 榎谷 誠三

(敬称略)

第5回耳鼻科セミナーを開催

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

専攻医 北野 真由子

2月5日、リーガロイヤルホテル堺におきまして「ベルランド耳鼻科セミナー」を開催させていただきました。

会場には、耳鼻咽喉科外来、東7A病棟、手術場のスタッフも多く出席し、また、集まってくださった開業医の先生方の中には、耳鼻咽喉科ではなく、内科の先生方も多くおられ、関心を持っていただいていることを医局員全員、大変うれしく思いました。



「当院における嚥下障害の診断と治療について」
関口 医長

まず第1部として、当科で経験した症例や、当科での治療成績などについて発表させていただきました。当科で経験した、「ダンベル型を呈した耳下腺 oncocytoma」は、本邦初の症例であり、また「舌骨骨折をきたした喉頭外傷の1例」も、通常では起こりにくい骨折の例でしたので、会場に集まってくださった方々から、多くの質問があり、興味深い発表になったのではないかと思います。



岩手医科大学 佐藤宏昭教授

また、当科での甲状腺腫瘍手術に関する統計や治療成績、嚥下評価に関する発表は、内科の先生方や、他施設で嚥下機能評価をされている先生方からの質問が多くあり、科や施設を超えて、お互いに理解を深め合える機会になったのではないかと思います。

さらに、特別講演では岩手医科大学から佐藤宏昭教授にお越しいただき、「真珠腫合併例に対する取り扱い」について講演していただきました。普段なかなか経験しない貴重な症例についてお話いただき、大変勉強になりました。

また、次回も多くの方々に、当科の診療に関心を持っていただき、理解を深めていただけるような会にしたいと考えております。

今回同様、多数のご参加をお待ちしております。



井上医師 佐藤教授 北野医師 石川部長

日本医療薬学会研修施設に認定

薬剤部 副部長 中井 由佳

昨年の12月、当院が日本医療薬学会の研修施設に認定されました。研修施設に認定されるためには、①学会から委嘱された指導薬剤師が1名以上②認定薬剤師の認定資格を得るための研修を受け入れるに相応しい設備と機能を有することなどの条件があり、平成21年1月8日現在、全国で245施設が認定されています。

指導薬剤師に委嘱されるためには、まず、認定薬剤師にならなければなりません。



(I) 認定薬剤師の認定条件

- (1) 日本国の薬剤師免許を有する
- (2) 薬剤師歴5年以上、申請時において引き続いて5年以上本学会会員である
- (3) 研修施設において、通算1年以上の医療薬学に関する研修（実務経験を含む）を行っている
- (4) 本学会および本学会の主催するシンポジウムなどに規定の回数以上参加している
- (5) 医療薬学に関する学会発表3回以上（発表者1回以上を含む）および学術論文3編以上

認定薬剤師になるためには、学会が示す条件を満たして認定試験の受験資格を得て、試験に合格しなければなりません。平成21年1月8日現在、全国で認定薬剤師1,011名（うち指導薬剤師687名）が認定されており、当院薬剤部には認定薬剤師3名（うち指導薬剤師1名）【中井、石田、渡邊】がいます。

(II) 指導薬剤師の委嘱条件

- (1) 本学会認定薬剤師であり、かつ本学会会員歴7年以上
- (2) 医療薬学に関する学会発表10回以上および学術論文10編以上

上記の条件のすべてを具備し、本人が作成した学会所定の書類による委員会の審査を経て、理事会が指導薬剤師を委嘱します。

委嘱または認定条件をご覧いただければ理解していただけると思いますが、認定されるまでの道程は平坦ではなく、日常業務終了後や帰宅してからの不断の努力が必須となってきます。学会発表や論文投稿は、他病院の薬剤師への情報提供であったり、自分達の工夫や新たな試みを、形のあるものとして残したりすることができます。しかし、病院薬剤師業務の基本は、調剤、薬剤管理指導（服薬指導、薬歴管理、医師・看護師への情報提供）であり、患者さまに安全で安心な医療を提供してこそ、学会発表や論文投稿活動も生きてきます。

今後、わたしたちが自分自身の家族も受けたい医療を提供するという基本姿勢を保ちつつ、患者さまとの関わりの中で得た知見を外に向けて広めることで医療の発展に貢献したいと考えています。

当院では、毎年入院・外来患者様満足度調査を実施しております。今回、昨年末の11月～12月に実施した満足度調査結果をご報告いたします。

入院および外来での医療サービス10項目について伺いました。その結果、入院部門においてプライバシーの保護が全国平均を下回ったものの、平成19年の当院の評価に比べ改善傾向が見られ、安全性・アメニティ・コミュニケーション・職員能力・ていねいさ・反応の良さ・患者理解・手続きの容易性の8項目は、全国平均よりも高い評価をいただきました(図1)。

一方、外来部門においてはプライバシーと信頼性に関してやや難があるものの、その他の8項目は全て全国平均を上回っておりました。病院の西館は、築27年と老朽化のみならず十分なスペースが確保できていないことも一因かと思われ(図2)。

入院

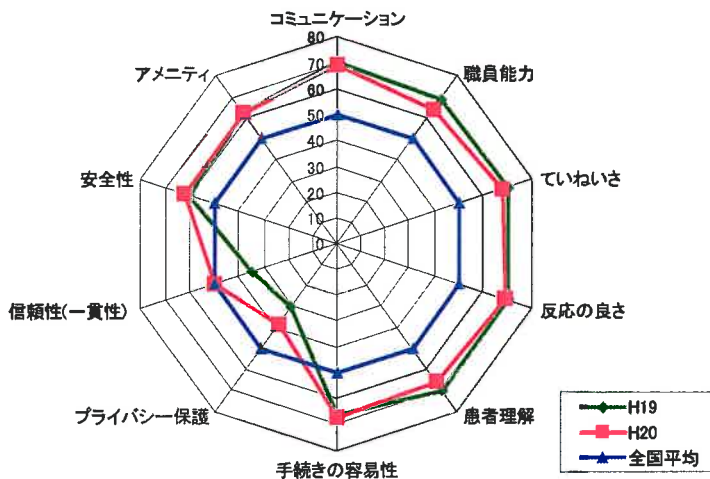


図1

外来

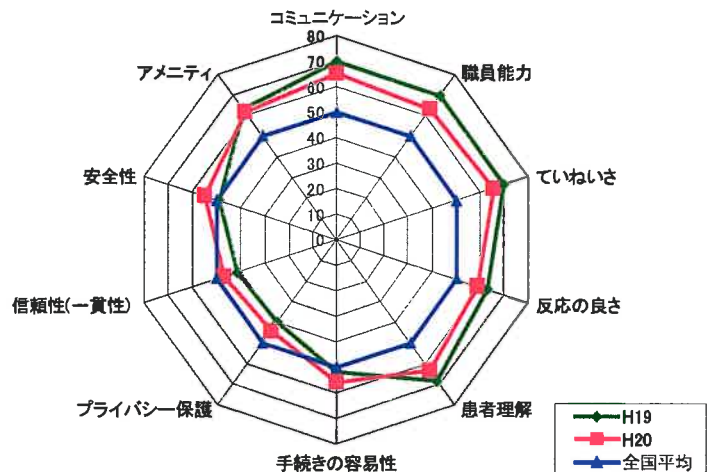


図2

図3は、同時期に同一の調査を実施した全国急性期型病院500床以上(97施設)の評価をプロットしたグラフです。各施設において入院と外来のどちらに強みがあるかがわかりますが、当院は入院も外来も評価が高い領域Aに属しています。ベンチマーク上、全国的にも高い評価を得ているものと考えています。

今後、ご指摘いただいたプライバシーの保護も含めCS(顧客満足)向上の推進に努めてまいります。

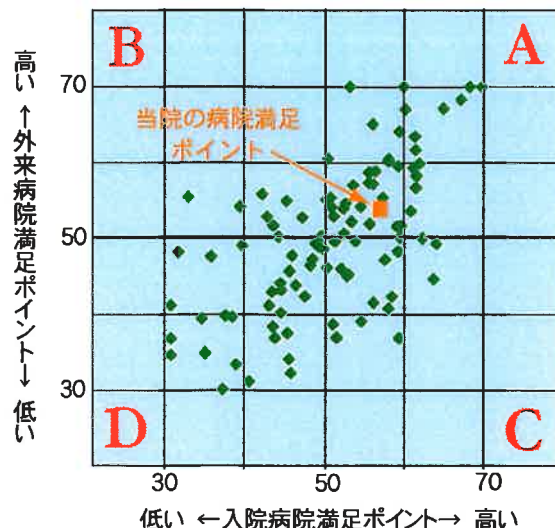


図3

文責 医療情報課 課長補佐 武市 和典



言語聴覚士 (ST)

言語聴覚療法室

鈴木 淳子



「こども」によるコミュニケーションは、意志・伝達・思考・感情表出など人間の営みにとって欠かせない機能で、失語症、高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、失行、失認、遂行機能障害など)、言語発達障害、音声障害、構音障害、嚥下障害、吃音障害、聴覚障害など様々な言語聴覚障害が引き起こされると、本人や家族の生活に大きな影響を与えます。

言語聴覚士 (ST: Speech-Language - Hearing Therapist) について

言語聴覚士(以下ST)は、先述のコミュニケーション障害に対して、検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行う国家資格です。専門職としての臨床活動は50年以上になりますが、第1回国家試験が1999年実施と比較的新しい資格といえます。

国家試験の受験資格を得るには複数の進路があり、例えば大学卒業後では2年制の専修学校に入学し、必要な知識および技能を修得して卒業することが必要です。現在全国の有資格者は約1万6000人で、医療の他、介護、教育などの領域で活動しています。

言語聴覚療法室

当院の言語聴覚療法室は、近隣の医療機関の中でも開設は古く、20年以上も前から常勤STが活動していました。

現在は、急性期病院として脳損傷によって起きる「失語症」「運動障害性構音障害」などの急性発症の言語障害、また声帯病変などによって起きる「音声障害」、そして高齢化社会の進行により近年特に増加している「摂食・嚥下障害」などを対象としております。

具体的には、急性期の変化する身体症状をみながら、

- ①鑑別診断を行い言語機能を把握し、最適なコミュニケーション手段を本人・家族・スタッフに提供
- ②言語症状や合併する高次脳機能障害に関する説明、対応を指導し、本人や家族の混乱と不安を軽減できるよう援助
- ③可能であれば言語訓練
- ④摂食・嚥下障害合併時は、その対応を医師に提案

などを行っています。

NST (Nutrition Support Team) 中の嚥下チーム

当院ではNSTの中に嚥下チームがあり、多職種で摂食・嚥下障害に対応しています。たとえば、嚥下チームの耳鼻科医が行う嚥下造影(図)や内視鏡検査には、ST、看護師、管理栄養士も参加し、その場で誤嚥性肺炎のリスクを回避できる摂食方法や食種のカンファレンスを行っています。ここでSTは、嚥下能力・機能の評価やゴール設定を医師とともに、訓練計画の立案を担当しています。

このように、STは日々障害のある方に接していますが、言語聴覚障害という「障害」を扱っているのではなく、「人」への援助活動を行っているという認識に立った上で、専門的なサービスを提供していきたいと考えております。

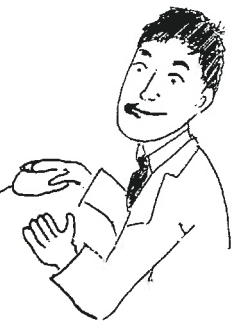


図. 嚥下造影

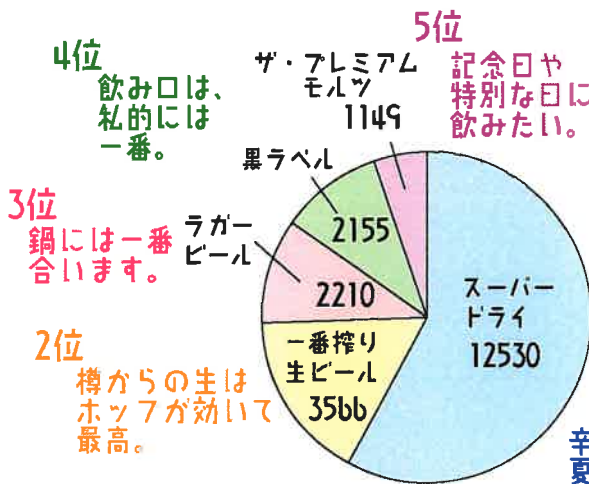
最近の ビール事情



いや～汗ばむ季節となって
きました。
こういった季節には、ひんやり
冷えたビールで1日の疲れを
癒そうということで、今回は近
頃のビール事情を取り上げてま
いりたいと思います!



地域医療連携室
主任 中野素宏



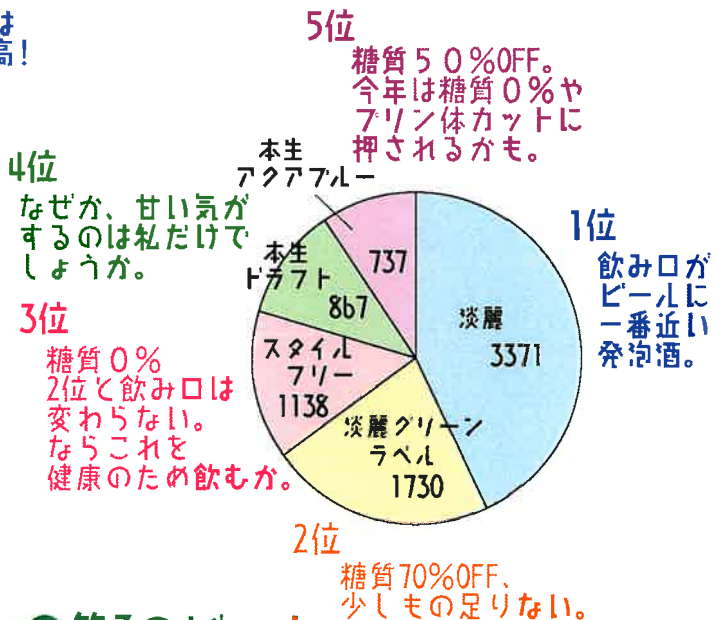
●ビール

1位～4位の銘柄の原料は、麦芽とホップの他に米、コーン、スターチの3種類が添加されており、日本人の好みに合わせて作られています。

本場ドイツでは、原料が麦芽とホップ以外のは、ビールでないとされています。これを日本製品にあてはめると、5位のモルツとエビスなど数えるほどしかなく、販売数の5%程度しかないので、近年飛躍的に伸びております。不況の影響から外で飲む機会が減り、家で飲む人が増えてきて、せめて家で美味しいビールが飲みたいという心理が働いたと思われる。

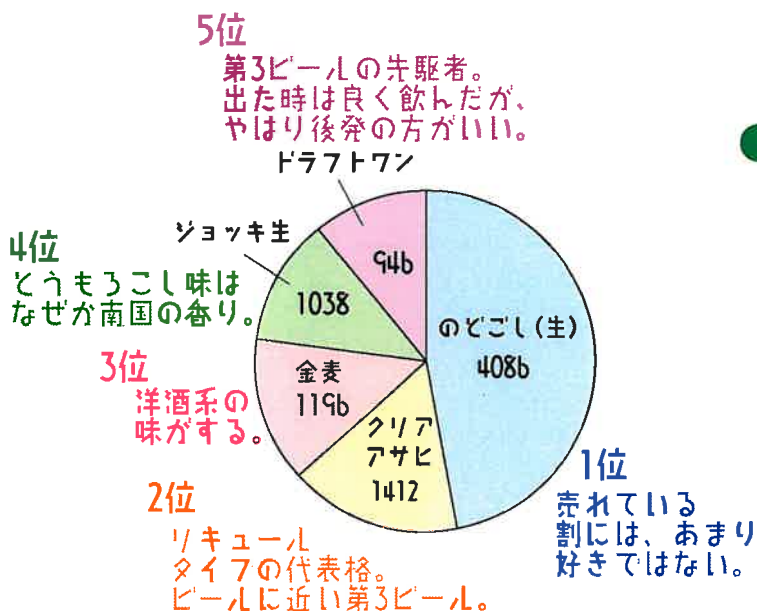
●発泡酒

麦芽比率が67%未満なのが発泡酒です。03年の酒税法改正で税率が上がり、売上が鈍化しました。しかし近年、3位のスタイルフリーのような糖質0やプリン体カット(プリン体の過剰摂取は痛風の原因の一種と言われている)等、健康志向の発泡酒が売上を伸ばしています。



●第3のビール

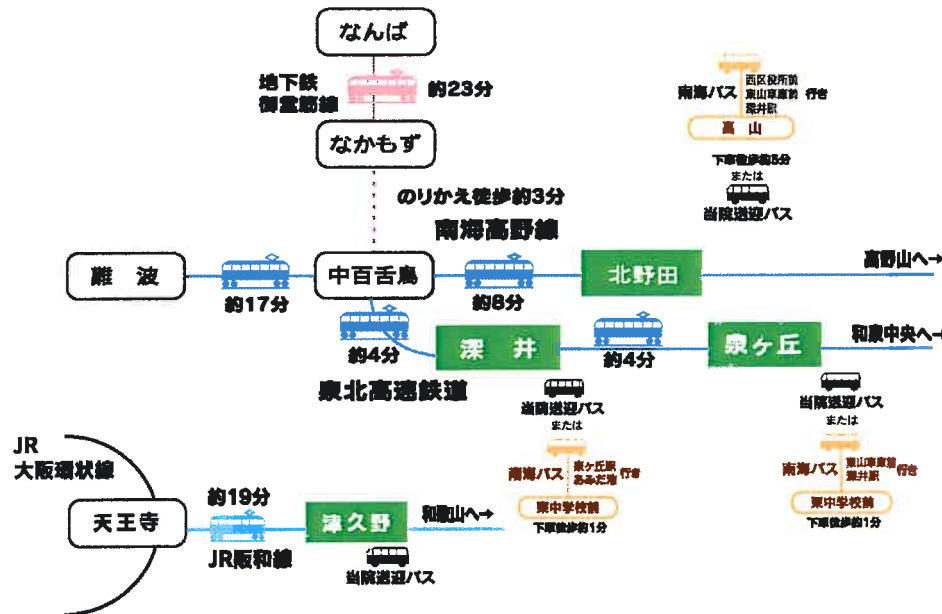
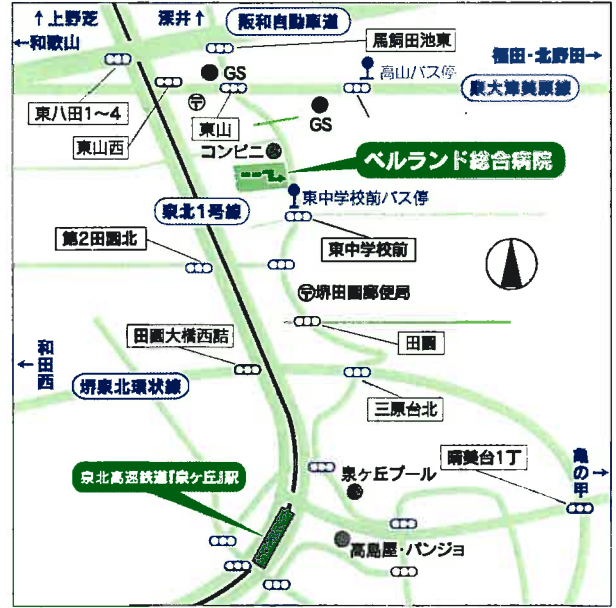
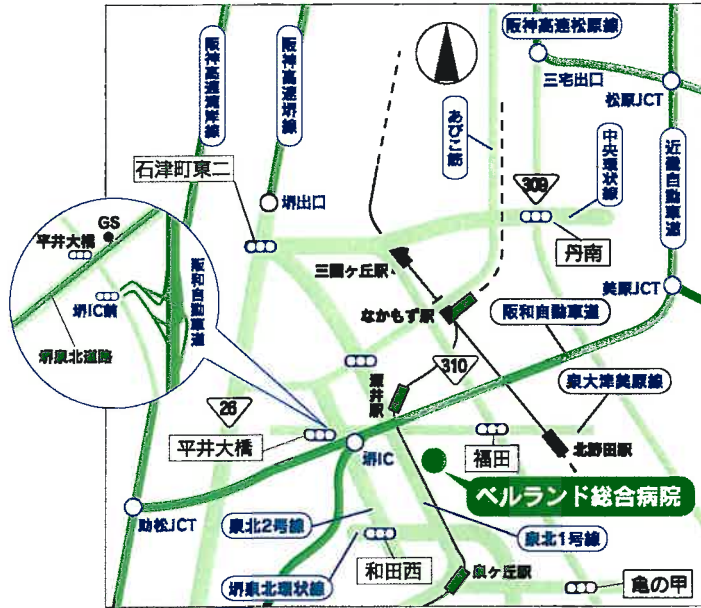
ビール風アルコールの総称で、原料に麦芽を使わない『その他の醸造酒』(大豆たんぱくを主原料とするドラフトワン、のどごし、とうもろこしを主原料にしたジョッキ生) 発泡酒に別のアルコールを混ぜた『リキュール』(クリアアサヒ、金麦)の2種類があります。現在はリキュール型に人気が高まってきています。第3のビールの販売実績は発泡酒を抜き、大きな市場となってきています。



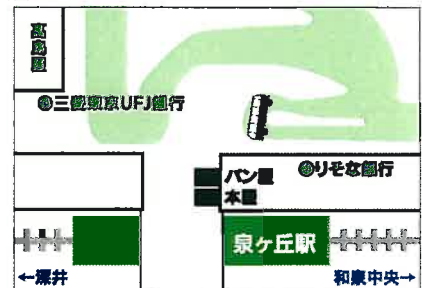
※注1：各色文字は中野的酔っ払いコメントです。
※注2：グラフは2008年度売上実績(単位：万本)

交通のご案内

- ▼大阪方面から：泉北1号線深井駅北より側道へ入る。2個めの信号（東山西）を左折、つぎの東山交差点を右折して直進。
- ▼南大阪方面から：泉北1号線泉ヶ丘駅付近をすぎて、堺泉北環状線方面の側道に入る。
田園大橋西詰交差点から側道の2個めの信号を右折、突き当たりの交差点を左折して直進。
- ▼阪和自動車道から：堺IC堺出口を右折。平井大橋交差点を右折して約2kmの馬飼田池東交差点を右折約1km。
- ▼阪神高速湾岸線から：助松JCTより堺泉北有料道路へ入る。平井（深井方面）出口から約2kmの馬飼田池東交差点を右折約1km。

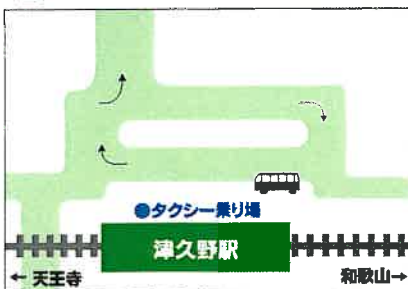


■泉ヶ丘駅の当院送迎バス乗り場のご案内



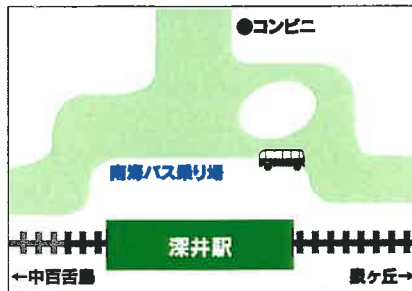
【泉ヶ丘駅発→ベルランド総合病院行き】
 7:30~13:45まで毎時00・15・30・45分発
 14:00~19:30まで毎時00・30分発
【ベルランド総合病院発→泉ヶ丘駅行き】
 7:20~13:50まで毎時05・20・35・50分発
 14:20~19:20まで毎時20・50分発
 ※南海バス(東山車庫前・深井駅行き)バスは、1時間あたり約2本出発

■津久野駅の当院送迎バス乗り場のご案内



【津久野駅発→ベルランド総合病院行き】
 10:20・13:20・15:20
【ベルランド総合病院発→津久野駅行き】
 10:00・13:00・15:00

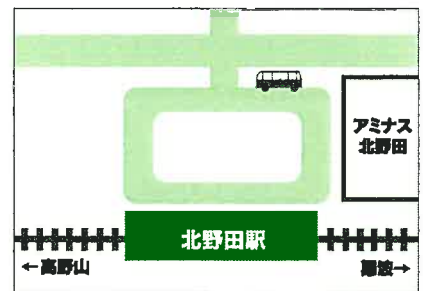
■深井駅の当院送迎バス乗り場のご案内



【深井駅発→ベルランド総合病院行き】
 10:35・13:35・15:35
【ベルランド総合病院発→深井駅行き】
 10:00・13:00・15:00

※南海バス(泉ヶ丘駅・あみだ池行き)バスは1時間あたり約4本出発

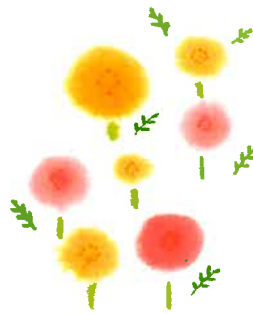
■北野田駅の当院送迎バス乗り場のご案内



【北野田駅発→ベルランド総合病院行き】
 9:00・11:15・14:15・16:15
【ベルランド総合病院発→北野田駅行き】
 8:45・11:00・14:00・16:00

※南海バス(西区役所前・東山車庫前・深井駅行き)バスは、1時間あたり約3本出発

Bell Letter



地域医療連携室では、以下の業務を行っています。

- ①診察・検査の予約
- ②入院の受け入れ
- ③診療情報提供書の返信チェック
- ④当院からの逆紹介
- ⑤共同診療の運営・管理

①②に関しましては、医師への確認・院内調整を行い、
予約票（来院日時）を作成しFAXにてご報告いたします。

その他、ご依頼等がございましたら、お気軽にお問合せ下さい。

地域医療連携室業務時間

月～金曜日（午前9時～午後8時）
土曜日（午前9時～午後5時）

医療機関様専用

TEL：0120-13-9215（直通）

FAX：0120-53-0096

一般の方は、代表番号(072-234-2001)におかけ下さい。